

第3 事業実績

I アイヌに関する総合的かつ実践的な研究の推進

1 アイヌ関連研究事業

アイヌに関する総合的・実践的研究を行う事業及び研究成果などの出版に対して助成を行い、アイヌの社会や文化に関する研究の推進を図った。

(a) 研究・出版助成

- ・研究助成：アイヌの社会や文化に関する総合的・実践的研究を行うものの中で、優れた研究成果の期待できる研究計画に対し経費を助成した。
- ・出版助成：アイヌの社会や文化に関する出版物で、商業ベースに乗らないものや自費出版のため発行部数が少なく、研究者などに行き渡らないものについて助成した。

(単位：千円)

区 分		予算額		申請実績		交付実績	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
研究助成	一般	4	4,600	3	3,398	1	1,396
	奨励	2	600	0	0	0	0
出版助成		8	9,600	3	4,035	2	2,895
合 計		14	14,800	6	7,433	3	4,291

\* 研究助成については、新型コロナウイルス感染症の影響により承認2件のうち1件中止。

(b) 研究成果集

・登載審査委員一覧

役職名	氏 名	摘 要
委 員	廣野 洋	アイヌ民族文化財団助成事業審査委員長
委 員	笹倉いる美	アイヌ民族文化財団助成事業審査委員
委 員	出利葉浩司	アイヌ民族文化財団助成事業審査委員
委 員	宇治 義之	アイヌ民族文化財団事業運営委員
委 員	持田 誠	アイヌ民族文化財団事業運営委員

・審査（在宅審査）

審査期間	審査対象の成果品	摘 要
10月上旬～1月下旬	1件	各審査委員に成果品のコピーを送付し、在宅審査を行う。

・研究成果集の刊行

タイトル	作成時期	作成数	主な配布先
アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第21号	3月	900冊	道内市町村教育委員会、主な公共図書館、大学付属図書館、博物館、北海道アイヌ協会等のアイヌ関係団体、研究機関

## II アイヌ語の振興

### 1 アイヌ語教育事業

#### ① 指導者育成

アイヌ語教育の充実に向けて、アイヌ語研究者などの協力を得て、アイヌ語の文法や言語学の基礎を踏まえた効果的な指導方法などについての学習機会を提供し、アイヌ語指導者の育成を図った。

##### (a) 講師一覧

氏名	摘要
北原モコトウナン	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
佐藤 知己	北海道大学大学院文学研究院教授
志賀 雪湖	東京外国語大学非常勤講師
中川 裕	千葉大学名誉教授 ※フォローアップ限定
八谷 麻衣	令和元年度伝承者育成事業（アイヌ語）講師

アイヌ民族文化財団職員（民族共生象徴空間運営本部）

中井 貴規	国立アイヌ民族博物館研究学芸部教育普及室研究主査
山丸 賢雄	文化振興部体験教育課主事

##### (b) 講師会議

開催日	開催場所	協議事項等
7月 6日（火）	財団会議室 （オンライン会議）	・今年度の指導方針について ・フォローアップ・カリキュラム案の作成等
8月22日（日）	財団会議室 （オンライン会議）	・第1回スクーリング・カリキュラム案の作成等
9月25日（土）	札幌駅前カンファレンスルーム （オンライン会議）	・第2回スクーリング・カリキュラム案の作成等
11月 6日（土）	北農健保会館	・第3回スクーリング・カリキュラム案の作成等
3月 4日（金）	財団会議室 （オンライン会議）	・令和4年度アイヌ語指導者育成事業について ・第13期スクーリング受講生の募集について

##### (c) スクーリング

開催期間	開催場所	受講生
9月24日（金）～9月26日（日）	札幌駅前カンファレンスルーム	岩谷実咲、織田瑞希、 川上 恵、郷右近富貴子、 佐藤花耶、下倉絵美、 邊泥敏弘、結城 陸
11月 5日（金）～11月 7日（日）	北農健保会館	
12月 3日（金）～12月 5日（日）	北海道クリスチャンセンター	

##### (d) フォローアップ講座

開催期間	開催場所	受講生
8月21日（土）～22日（日） 8月27日（金）～28日（土）	財団会議室 （オンライン）	荒田このみ、大須賀るえ子、上河 彩、 川上さやか、川上 恵、工藤 小夜、 葛野 大喜、作田 悟、瀧口 夕美

## ② 上級講座

アイヌ語教育の充実に向けて、アイヌ語研究者などの協力を得て、中級話者を対象に地域において講座を開設し、将来、アイヌ語の指導者となる上級話者の育成を図った。

開催地区	講 師	受講者数	開催期間	開催回数
東 京	中川 裕	10	10月23日（土）～ 3月26日（土）	4
浦 河	関根 健司	5	7月10日（土）～ 1月16日（日）	16
帯 広	安藤日出通	4	8月11日（木）～ 12月28日（火）	16
白 老	大須賀るえ子	4	7月 4日（日）～ 12月 5日（日）	16
平 取	関根 健司	5	6月25日（金）～ 2月23日（水）	16
阿 寒	藤村 久和	5	11月 9日（火）～ 1月24日（月）	14
三 石	藤村 久和	5	6月26日（土）～ 12月12日（日）	16

## ③ 初級講座

### (a) 親と子のアイヌ語学習

アイヌ民族の親子を対象とし、アイヌ語話者及びアイヌ語研究者の協力を得て、アイヌ語の振興及びアイヌの伝統や文化の保存を図った。

開催地区	講 師	受講者数	開催期間	開催回数
東 京	瀧口 夕美	5家族10名	10月 9日（土）～ 3月26日（土）	8
札 幌	川上 夏希	3家族 7名	10月 5日（火）～ 2月26日（土）	14

### (b) アイヌ語入門講座

アイヌ語伝承者のさらなる掘り起こしと裾野の拡大を目的にアイヌ語を学習、習得及び継承しようとする意欲のある未経験者を対象とした入門講座を実施し、中級話者及び上級話者の育成につなげた。

開催地区	講 師	受講者数	開催期間	開催回数
札 幌	阿部 一	受講者15名 (累計85名)	7月17日（土）～ 2月12日（土）	20
東 京	成田 英敏	受講者10名 (累計47名)	10月13日（水）～ 3月23日（水）	7
白 老	山丸 賢雄	受講者26 (累計196名)	6月11日（金）～ 2月18日（金）	20
釧 路	奥田 幸子	受講者18名 (累計128名)	6月21日（月）～11月24日（水）	20
むかわ	押野千恵子	受講生21名 (累計70名)	6月25日（金）～11月19日（金）	20

## ④ アイヌ語教育基盤整備

アイヌ語の教育の基盤整備として、アイヌ語の効果的・効率的な教育法、学習法などの確立を目指した。

(7) 検討員一覧

氏名	摘要
北原モコトウナン	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
佐々木博司	江別市立対雁小学校教諭
瀧口 夕美	令和3年度アイヌ語初級講座（親と子のアイヌ語学習）講師
中川 裕	千葉大学名誉教授
早坂 ユカ	令和2年度アイヌ語上級講座話者
本田 優子	札幌大学教授

アイヌ民族文化財団職員（民族共生象徴空間運営本部）

氏名	摘要
小林 美紀	国立アイヌ民族博物館研究学芸部展示企画室研究員
深澤 美香	国立アイヌ民族博物館研究学芸部研究交流室研究員
山丸 賢雄	文化振興部体験教育課主事

(i) 検討委員会

開催日	開催場所	協議事項等
9月9日（木）	財団会議室 （オンライン会議）	・アイヌ語教育基盤整備事業に係るアイヌ語各種事業の検証について ・今後のスケジュールについて
11月10日（水）	中小企業会館 会議室A・B	・アイヌ語教育基盤整備事業に係るアイヌ語各種事業の検証について ・今後のスケジュールについて

(ウ) 海外視察

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

## 2 アイヌ語普及事業

### ① アイヌ語発信講座

#### (a) ラジオ講座

アイヌ語を広く一般に普及させるため、初心者向けのアイヌ語講座をSTVラジオから放送し、多くの人にアイヌ語に触れ、学習する機会を提供するとともに、アイヌ語やアイヌ文化への理解の促進を図った。

(ア) 放送内容

放送局	放送日・放送時間	講師
STVラジオ	本放送:毎週日曜日 あさ7:00～7:15	菅原 勝吉

(イ) テキスト

種別	作成時期	作成数	主な配布先
令和3年度Vol.2（7月～9月放送分）	6月	4,000	各アイヌ協会、博物館、図書館、各アイヌ語教室、アイヌ語関係者など
令和3年度Vol.3（10月～12月放送分）	9月	4,000	
令和3年度Vol.4（1月～3月放送分）	12月	4,000	
令和4年度Vol.1（4月～6月放送分）	3月	4,000	

(ウ) 収録

令和3年度第5回放送分から令和4年度第4回放送分まで

(b) 動画講座

アイヌ語を広く一般に普及させるため、初心者向けのアイヌ語講座を動画共有サービス Youtube にアップロードし、多くの人にアイヌ語に触れ、学習する機会を提供するとともに、アイヌ語やアイヌ文化への理解の促進を図った。

(ア) 配信内容

配信動画	配信方法
24本（1本につき 3～5分）	動画共有サービス Youtube

(イ) 企画編集委員一覧

氏名	摘要
北原モコットゥナン	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
佐藤 知己	北海道大学大学院文学研究院教授
関根 健司	平取町教育委員会生涯学習課教育係アイヌ文化学習係係長
中川 裕	千葉大学名誉教授

アイヌ民族文化財団職員（民族共生象徴空間運営本部）

荒田このみ	文化振興部体験教育課主任
山丸 賢雄	文化振興部体験教育課主事

(ウ) 企画編集委員会

開催日	開催場所	協議事項等
4月15日（木）	財団会議室 （リモート開催）	・前年度の振り返り
7月 8日（木）	財団会議室 （リモート開催）	・令和3年度の進め方について ・令和3年度の動画テーマについて
8月24日（火）	財団会議室 （リモート開催）	・第1回事前打合せ（チームミーティング） の結果について ・今後の制作スケジュール等について

② 弁論大会

アイヌ語を学んでいる人々の学習成果を発表する場として、アイヌ語による弁論大会を開催し、その学習意欲の向上を図るとともに、開催地域の人々にアイヌ語を直接耳にする機会を設けアイヌ語の普及を図った。

(a) 開催日時

11月20日（土）13:00～16:00

(b) 開催場所

北ガス文化ホール 中ホール（北海道千歳市）

(c) 出場者

募集期間 7月15日(木)～9月17日(金)

区 分	発表内容	出場者数	受賞者数
子どもの部	自由	[ 1組 1名]	[ 1組 1名]
大人 の 部	口承文芸部門	[ 7組 7名]	[ 3組 3名]
	弁 論 部 門	[ 6組 8名]	[ 2組 2名]
口 演 の 部	自由	[ 1組 1名]	—

(d) 審査委員

区 分	氏 名
審査委員長	菅原勝吉
審 査 委 員	大野徹人、成田英敏、早坂ユカ、山田良子

(e) 表彰

区 分	発表内容	表彰者	
最優秀賞	子どもの部	自由	佐藤 千愛 (千葉県)
	大人 の 部	口承文芸部門 弁論部門	高橋比登美 (北広島市) 岡本 朋也 (平取町)
優 秀 賞	子どもの部	自由	該当者なし
	大人 の 部	口承文芸部門 弁論部門	川上 竜也 (札幌市) 飯塚 潔子 (平取町) 楠本スクシ (札幌市)

(f) その他

出場者募集ポスター : 900 枚 (7月作成)  
出場者募集チラシ : 3,000 枚 (7月作成)  
来場者募集チラシ : 5,500 枚 (10月作成)  
プログラムの作成 : 250 部 (11月作成)  
報告集動画の作成 : 当財団HPにて公開 (3月)

### Ⅲ アイヌ文化の振興

#### 1 アイヌ文化伝承再生事業

##### ① マニュアル作成

アイヌの伝統的な生活文化には、有形・無形を含め様々なものがあるが、その製作技術や儀礼などが失われつつある。このため、テーマ毎に映像と活字による「アイヌ生活文化再現マニュアル」、工芸品等の製作の様子や伝承活動を紹介する「アイヌ文化伝承活動アーカイブス」を作成し、広く人々の利用に供して、製作技術などの保存・伝承を図った。

種 別	作成時期	作成数	主な配布先
活字マニュアル 料理 (平取編2)	3月	320	博物館、図書館、各アイヌ協会、アイヌ関係団体など
映像マニュアル 身を守るもの (平取地方)	3月	350	
アイヌ文化伝承活動アーカイブスVol.6	3月	1,000	

## ② 実践上級講座

### (a) 口承文芸伝承者（語り部）育成

ユカラ（英雄叙事詩）、カムイユカラ（神々の物語）、ウエペケレ（昔話）などの口承文芸の伝統を継承するため、伝承者が継承者へ「語り」を直接指導するなどして、新たな語り部の育成を図った。

開催地区	伝承者	継承者数	開催期間	開催回数
平 取	木幡サチ子	4	6月29日（火）～ 11月30日（火）	15
むかわ	大森きよ子	5	6月21日（月）～ 11月15日（月）	15

### (b) 伝統文化（木彫・刺繍等）指導者育成

アイヌの人々が多く居住する北海道や関東地区において、アイヌの民族舞踊や刺繍、木彫などの講座を開設し、アイヌ文化を担う指導者の育成を図った。

開催地区	講座種別	講 師	受講者数	開催期間[予定]	開催回数
東 京	刺繍	澤 節子	10	10月24日（日）～ 3月27日（日）	4
	編物	弓野 恵子	5	10月 3日（日）～ 3月 6日（日）	3
	音楽	千葉 伸彦	8	11月 7日（日）～ 3月 6日（日）	2
※東京地区：4月開始予定のところ、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、9月末まで中止。					
札 幌	刺繍	飯田 米子	7	7月13日（火）～ 10月 6日（水）	12
札 幌	木彫	小川 俊和	7	7月16日（金）～ 10月 9日（土）	12
札 幌	木彫	早坂 雅賀	12	10月 1日（金）～ 1月19日（水）	12
札 幌	編物	早坂 ユカ	8	11月17日（水）～ 2月24日（木）	12
阿 寒	刺繍	小林 慶子	15	11月29日（月）～ 2月 1日（火）	12
旭 川	木彫	藤戸 幸夫	4	6月26日（土）～ 10月17日（日）	12
浦 幌	刺繍	廣川 和子	7	9月28日（火）～ 12月21日（火）	12
長万部	刺繍	三原久美子	10	6月23日（水）～ 2月16日（水）	12
帯 広	編物	吉根とみ子	10	10月30日（土）～ 1月29日（土）	12
帯 広	舞踊	酒井奈々子	15	7月11日（日）～ 2月27日（日）	12
釧 路	木彫	伊藤 夕美	11	6月27日（日）～ 8月 8日（日）	12
白 老	刺繍	岡田 育子	9	10月 4日（月）～ 12月20日（月）	12
白 老	刺繍	山崎シマ子	13	7月28日（水）～ 2月25日（金）	12
伊 達	刺繍	石井 美香	11	10月 6日（水）～ 11月25日（木）	12
洞爺湖	刺繍	芳賀美津枝	3	7月 1日（木）～ 2月 3日（木）	12
平 取	編物	貝澤美和子	7	7月17日（土）～ 1月24日（月）	12
本 別	刺繍	山本 栄子	5	9月17日（金）～ 11月 8日（月）	12
幕 別	編物	杉村 忍	5	7月25日（日）～ 12月23日（木）	12
むかわ	木彫	尾崎 剛	12	11月 2日（火）～ 12月 9日（木）	12
芽 室	木彫	吉根 憲一	12	7月11日（日）～ 2月27日（日）	12
八 雲	刺繍	溝口 正枝	8	6月25日（金）～ 1月28日（金）	12
八 雲	舞踊	小崎明日香	12	6月27日（日）～ 10月24日（日）	12

(c) 成果発表会の開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

③ 伝統工芸複製助成

アイヌの伝統的な工芸技術などを伝承するため、複製品製作を行う個人や団体に対して経費の一部を助成し、その伝承意欲や知識、技術の向上を図った。

(単位：千円)

予算額		申請実績		交付実績	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
25	11,700	41	12,301	31	9,053

\*新型コロナウイルス感染症の影響により承認34件のうち2件中止、1件取り下げ。

④ 風俗慣習に関する伝承事業

アイヌ文化振興の一環として、文化継承者として次世代を担う人たちが、豊富な経験や知識を有するエカシ、フチからアイヌの風俗や慣習について継承する取り組みに要する経費の一部を助成し、アイヌ文化伝承活動の促進を図った。

(単位：千円)

予算額		申請実績		交付実績	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
5	1,250	5	673	4	479

\*新型コロナウイルス感染症の影響により承認5件のうち1件中止。

2 アイヌ文化交流事業

① アイヌ文化交流事業

(a) 国内文化交流助成

アイヌ文化の伝承者などを招聘し、アイヌ語や民族舞踊、木彫などを学習・鑑賞・体験しようとする事業に対して経費の一部を助成し、アイヌ文化の理解の促進を図った。

(単位：千円)

区 分	予算額		申請実績		交付実績	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
道内実施	30	30,000	77	43,652	49	19,703
道外実施	12	18,000	7	6,558	1	489
合 計	42	48,000	84	50,210	50	20,192

\*道内実施：新型コロナウイルス感染症の影響により承認67件のうち18件中止。

道外実施：新型コロナウイルス感染症の影響により承認4件のうち3件中止。

(b) 国際文化交流助成

アイヌ文化活動に携わる個人または団体が、海外先住民族などとの交流を通して、その文化の伝承・保存活動などを学ぶとともに、自らの文化を紹介するため、海外への派遣や海外

から招聘する国際交流事業に対して経費の一部を助成し、アイヌ文化の振興と普及啓発を図るものであるが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施実績なし。

(ア) 派遣事業

アイヌ文化活動に携わる個人または団体が、海外で文化交流活動を行う事業

(イ) 招聘事業

アイヌ文化の活動に関するセミナーなどを国内で開催する際に、海外から講師などを招聘する事業

(単位：千円)

区 分	予算額		申請実績		交付実績	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
派遣事業	3	2,800	0	0	0	0
招聘事業	2	800	0	0	0	0
合 計	3	3,600	0	0	0	0

② 青少年国際文化交流研修事業

(ア) 青少年国際文化交流研修

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

(イ) フォローアップ研修

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

3 アイヌ文化普及事業

① 伝統工芸展示・公開助成

アイヌの伝統的な工芸技術などを伝承するため、優れた工芸品の展示・公開を行う個人や団体に対して、経費の一部を助成し、伝承意欲や知識、技術の向上を図った。

(単位：千円)

予算額		申請実績		交付実績	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
4	2,000	3	1,290	1	395

\*新型コロナウイルス感染症の影響により承認3件のうち2件中止。

② アドバイザー派遣

アイヌの伝統や文化についての理解を深め、技術を学ぼうとする文化団体や学校などからの要請に応じて、専門的な知識や技術等を有する人をアドバイザーとして派遣するとともに、各種学校向けにアイヌ文化体験講座をメニュー化した「学校向け（パッケージ）派遣」を設け、アイヌ文化の振興を図った。

(a) 委 嘱 286名

(b) 派遣実績 266団体 延506人

(学校派遣：小学校141件、中学校20件、高校23件)

### ③ 工芸品展

アイヌの伝統的な工芸技術を用いて製作されたアイヌ民族衣装、生活用具、儀式用具、民芸品等を広く一般に公開するため、アイヌの工芸品を展示し、アイヌ文化に関する知識の普及啓発及び伝承意欲の向上等の促進を図った。

#### (a) 工芸品展企画委員

##### (ア) 企画委員名簿

役職名	氏名	摘要
委員長	山崎 幸治	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
委員	貝 澤 徹	アイヌ工芸家
委員	北原 モコトウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
委員	佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授
委員	瀧口 夕美	編集者
委員	谷本 晃久	北海道大学大学院文学研究院教授
委員	大坂 拓	北海道博物館学芸主査
委員	亀丸由紀子	北海道博物館学芸員
委員	田中 祐未	北海道博物館学芸員
委員	三浦 泰之	北海道博物館学芸主幹
委員	深澤 敦仁	群馬県立歴史博物館学芸係長
委員	武藤 直美	群馬県立歴史博物館学芸員

#### (b) 展覧会

##### (ア) 工芸品展名称

「アイヌのくらし—時代・地域・さまざまな姿」

##### (イ) 出品協力先等

北海道博物館、浦幌町立博物館、東京国立博物館、根室市教育委員会、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、松前町教育委員会、函館市教育委員会、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、北海道大学図書館、群馬県立歴史博物館、旭川市博物館、寿都町教育委員会、北海道立図書館、北海道立文書館、国立民族学博物館、個人

##### (ウ) 道内会場

- ・会 期 10月16日（土）～12月12日（日）
- ・会 場 北海道博物館（北海道札幌市）
- ・観覧者数 19,288人

##### (エ) 道外会場

- ・会 期 1月15日（土）～3月6日（日）
- ・会 場 群馬県立歴史博物館（群馬県高崎市）
- ・観覧者数 11,217人
- ・関連事業

特別講演「いわゆる近世のアイヌのくらし」

講 師：佐々木利和（北海道大学アイヌ・先住民研究センター 客員教授）

日 時：令和4年1月15日（土） 13：30～15：00

来場者：64名

講演会①「祈りのかたちー日本と世界の削りかけ文化」

講 師：今石みぎわ（東京文化財研究所主任研究員）

日 時：令和4年2月12日（土） 13：30～15：00

来場者：58名

講演会②「アイヌ・和人の精神世界」

講 師：北原モコットゥナシ（北海道大学アイヌ・先住民研究センター 准教授）

日 時：令和4年2月27日（日） 13：30～15：00

来場者：70名

コンサート「アイヌ民族の音楽ートンコリとムックリ演奏」

出 演：居壁太、星野工

日 時：令和4年1月30日（日） 14：00～15：00

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、演奏の映像を収録し、視聴覚室で公開する方法により実施。

ワークショップ「アイヌ刺繍でマスクをつくろう」

講 師：宇佐照代、宇佐智美

日 時：令和4年2月6日（日） ①10：00～12：00 ②13：30～15：30

来場者：①12名②12名

映画鑑賞「アイヌのお話アニメ」・「技」

日 時：会期中、関連事業のない土・日・祝日 13：30～15：00

内 容：視聴覚室にて子供向けにオルシペスウォフの上映

#### (c) 常設展示

アイヌ文化交流センター内展示スペース、北海道庁本庁舎1階、胆振総合振興局、東京都人権プラザ、釧路空港展示コーナー、函館空港展示コーナー、帯広空港展示コーナー、旭川空港展示コーナー、新函館北斗駅、JR札幌駅等に衣服、木工芸品等を展示

#### (d) 貸出

所蔵資料の貸出18件、所蔵写真の貸出19件、学習トランク17件

#### (e) アイヌ文化学習トランクの作成 6セット

#### (f) 現代アイヌ工芸品の展示

「アイヌの民具ーチセの中の暮らしー」（札幌グランドホテル）

展示期間 令和3年7月16日（金）～8月31日（火）

### ④ 文化フェスティバル

北海道及び北海道外において、広く一般の人々を対象に、民族舞踊をはじめとするアイヌ文化を総合的に紹介するアイヌ文化フェスティバルを開催し、アイヌ民族やアイヌ文化への国民

的な理解の促進を図った。

開催日・開催地	内 容	来場者数
7月24日(土) 滋賀県大津市 大津市民会館	◇基調講演 青柳周一(滋賀大学経済学部教授・附属資料館専任教員) 「江戸時代の近江と蝦夷地-滋賀大学経済学部附属資料館の 収蔵資料にみる-」 ◇口承文芸 高橋比登美 ◇音楽公演 居壁太・星野工 ◇古式舞踊 千歳アイヌ文化伝承保存会	800
10月2日(土) 群馬県高崎市 群馬音楽センター	◇基調講演 山崎幸治(北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授) 「アイヌのくらしと民具」 ◇口承文芸 木村梨乃 ◇音楽公演 居壁太・星野工 ◇古式舞踊 帯広カムイトウウポポ保存会	911
11月27日(土) 東京都千代田区 有楽町朝日ホール	◇口承文芸 山田良子 ◇音楽公演 カピウ&アパッポ ◇古式舞踊 アイヌルトムテ ◇紙芝居 三橋とら	476
1月22日(土) 北海道札幌市 札幌市教育文化会館	◇基調講演 秋辺日出男(当財団評議員) ◇口承文芸 川上容子 ◇音楽公演 フンペシスターズ ◇古式舞踊 平取アイヌ文化保存会	282

#### 4 アイヌ文化活動表彰事業

##### ① 工芸作品コンテスト

アイヌの伝統的な技術による工芸作品やその技術を活用した現代的創作作品のコンテストを開催し、優秀な作品を表彰して製作技術の向上と芸術創作活動を促進するとともに、応募作品を展示し、アイヌ工芸作品を鑑賞する機会を提供した。

##### (a) アイヌ工芸作品コンテスト審査委員一覧

役職名	氏 名	摘 要
委員長	浅川 泰	前北海道立近代美術館学芸部長
副委員長	貝澤 竹子	(公財)アイヌ民族文化財団認定 伝統工芸家
委 員	貝澤 和明	(公社)北海道アイヌ協会事務局長
委 員	出利葉浩司	放送大学 分担講師
委 員	印南 小冬	(地独)北海道立総合研究機構ものづくり支援センター開発推進部研究職員
委 員	山本みい子	(公社)北海道アイヌ協会認定 優秀工芸師

##### (b) 審査委員会

開催日	開催場所	審査対象作品	協議事項等
7月29日(木)	かでの2・7 530会議室及び 展示ホール	129点	委員長の互選 一次審査及び二次審査 受賞作品決定

## (c) 表彰式・展示

区分	開催日または期間	開催場所	来場者数
展示	7月30日(金)～8月2日(月)	かでの2・7展示ホール	318
巡回展示	10月15日(金)～10月20日(水)	有楽町朝日ギャラリー	205
巡回展示	10月29日(金)～10月31日(日)	稚内市立図書館	347

\*表彰式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

## (d) 受賞者一覧

賞区分	受賞者	所在地	部門	作品名
優秀賞	河波まさ子	札幌市	編織刺	ひかり
	吉田 信男	白老町	一般	キムンカムイ(えぞひ熊)
	佐藤登紀子	札幌市	一般	ルウンペのやすらぎ
入選	佐藤登紀子	札幌市	一般	豪然
	鈴木 ミチ	函館市	編織刺	ルウンペ/木綿衣
	片山 兵衛	鷹栖町	一般	釉盛上アイヌ紋壺
奨励賞	柴田 幸宏	平取町	編織刺	アットウシ織/オヒョウの皮で織った反物
	川上ききょう	平取町	編織刺	アットウシアミプ(厚司の着物)
	伊藤利枝子	札幌市	編織刺	樺太アイヌ文様着物
	門脇 賢司	札幌市	木工	マキリ/短刀
	山下 一美	札幌市	一般	カパラミプのお稽古バッグ
	鳴海 修江	白老町	一般	海のうつわ
	杉村 忍	札幌市	一般	タペストリー
	相澤 道子	帯広市	一般	チヂリ
	川上 竜也	札幌市	一般	木彫かんざし2本セット
	吉田 信男	白老町	一般	手付ニマ

## ② アイヌ文化賞

永年にわたってアイヌ文化の向上、発展に努め、特に功績のあった人たちに、アイヌ文化賞、アイヌ文化奨励賞を贈呈して、その功績を顕彰するとともに、アイヌ文化の継承・振興にかかわる諸活動を奨励・促進した。

## (a) 被表彰者推薦期間

9月10日(金)～11月10日(水)

## (b) アイヌ文化賞等表彰者選考委員一覧

役職名	氏名	摘要
委員長	中村 吉雄	公益社団法人北海道アイヌ協会 副理事長
委員	磯部恵津子	白糠アイヌ文化保存会会長
委員	大島 直行	元北海道考古学会会長

役職名	氏名	摘要
委員	小川 悠治	標津アイヌ協会会長
委員	堀 悦子	浦河町アイヌ生活相談員
委員	本田 優子	札幌大学教授

(c) 選考委員会

開催日	開催場所	協議事項等
11月29日(月)	中小企業会館 会議室A	委員長の互選 アイヌ文化賞及びアイヌ文化奨励賞の選考

(d) 贈呈式

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、各市町村へ赴いて贈呈を行った。

(e) 受賞者一覧

賞区分	受賞者	年齢	所在地
文化賞	山崎シマ子	81	白老町
文化奨励賞 (個人)	秋田 てる	73	新ひだか町
	秋辺日出男	61	釧路市阿寒町
	菅野 節子	77	白老町
	丸子美記子	64	栃木県小山市
文化奨励賞(団体)	マクンベツアイヌ文化伝承保存会	—	幕別町

## 5 日本博特別企画「アイヌ文化フェスティバル」

ユネスコの消滅危機言語に指定されているアイヌ語をはじめ、アイヌ伝統舞踊など独創的で豊かなアイヌ文化の魅力を紹介するとともに、現代音楽や現代演劇との融合による新たなアイヌ文化の創造の姿を広く発信したことにより、多くの人々が“多様性と調和”によるアイヌの精神文化に触れることで、アイヌ文化をはじめ、北海道の歴史や文化に関心を持つ者への誘客促進、多文化共生社会の発展に寄与した。

開催日・開催地	内容	来場者数
9月18日(土) 北海道札幌市 札幌文化芸術劇場 hitaru	<input type="checkbox"/> ミュージカル公演 劇団わらび座 「松浦武四郎～カイ・大地との約束～」 <input type="checkbox"/> アイヌ語ラジオ体操 一般社団法人札幌大学ウレシパクラブ <input type="checkbox"/> アイヌ伝統舞踊公演 ウポポイ舞踊グループ 「シノッ～アイヌの歌・踊り・語り」スペシャルバージョン <input type="checkbox"/> 音楽公演 OK I + Marewrew	1,090

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のためロビープログラムは中止とした。

## IV アイヌの伝統等に関する普及啓発

### 1 普及啓発促進事業

#### ① 広報情報発信

##### (a) リーフレット等発行

アイヌの歴史や文化を紹介したパンフレットなどの広報資料を発行し、アイヌの歴史や文化について広く一般の人々の理解の促進を図った。

種 別	言語種別	作成時期	作成数
総合版 「令和3年度アイヌ民族文化財団のあらし」	日本語版	3月	450
	英語版	3月	450
文化情報版 「アイヌ民族～歴史と文化」	日本語版	3月	15,000
	英語版	3月	5,000

(b) ホームページ

インターネット上でアイヌ文化などに関する様々な情報を国内外に発信し、その普及啓発を図った。外国人のために英文のページも開設している。

(ア) アクセス数 256,577件 (3月31日現在 対前年比 1,204件増)

(イ) アイヌ生活文化再現マニュアル「山の幸の料理 平取地方」掲載

(ウ) アイヌ文化伝承活動アーカイブス「技 Vol.5」掲載

(エ) 「アイヌの絵本 Vol.1」掲載

② 児童生徒向け副教材の作成・配布

アイヌの歴史や文化についての児童・生徒の理解を深めるため、学校教育の場で使用される副読本を作成し、全国の小中学校へ配布してアイヌの歴史や文化などについての知識の普及啓発を図った。

(a) 副読本等

種 別	作成時期	作成数	配布先
小学生用	9・1月	68,200	全国の公立小中学校（道内小学校4学年児童及び中学校2学年生徒の全員）、都道府県教育委員会、市町村教育委員会、図書館
中学生用	9・1月	60,400	
教師用指導書	9・1月	37,300	

(b) 新たな副教材作成検討委員会の設置

検討委員会を設置した。

③ 親と子のための普及啓発

アイヌの伝統などを内容とした幼児向け絵本の原作を募集し、優れた作品を表彰した。

(a) 絵本原作募集

(ア) 募集期間 7月9日（金）～9月24日（金）

(イ) 応募点数 9点

(ウ) 幼児向け絵本（原作）募集に係る選考委員一覧

役職名	氏 名	摘 要
委員長	八谷 麻衣	アイヌ語指導者育成事業講師
委 員	長田 佳宏	平取町立二風谷アイヌ文化博物館長
委 員	早坂 ユカ	アイヌ文化活動アドバイザー
委 員	横田由紀子	札幌大谷大学短期大学部保育科教授
委 員	坂田 恵子	札幌市立はまなす幼稚園園長
委 員	吉本 裕子	横浜市立大学 客員研究員

## (エ) 一次審査（在宅審査）

実施時期	審査対象作品	摘 要
10月27日（水） ～11月19日（金）	9 作品	審査委員に出品作品（写）を送付し在宅審査を行った。

## (オ) 二次審査（選考委員会）

開催時期	開催場所	協議事項等
12月22日（水）	財団会議室	審査対象作品の選定、二次審査、受賞作品の決定

## (カ) 受賞作品

種 類	氏 名	作品名
最優秀賞	該当者なし	—
入 選	該当者なし	—
奨励賞	松下 美希	かけた小鍋と女の子
	さとうしほ すみたようこ	タニワッカとふたりのしまい
	周 金晶	アイヌの世界へ

## (キ) 絵本の刊行

最優秀賞受賞作品がないため刊行しなかった。

## ④ セミナー

アイヌの伝統などについての基礎的な知識を有する方や学校教育・社会教育関係者などを対象に、アイヌの歴史や文化をテーマとする高度な内容のセミナーを開催した。

会場：ロイトン札幌（北海道札幌市）

開催日	講座名	講師名	受講者数	
			対面	オンライン
1月10日（月）	小樽アイヌ文化考 －和人側の資料から－	菅原 慶郎	18	41
	17世紀の小氷期に対するアイヌ民族の対応 を探る－伊達市での研究事例から－	添田 雄二	19	
1月11日（火）	昔ながらの狩りもしてみたい －現代のアイヌマタギとして－	門別 徳司	17	56
1月12日（水）	カムチャツカ半島・千島列島に千島 アイヌの足跡を追う	高瀬 克範	15	
1月13日（木）	至高の宝「鋏形」とアイヌ社会の首長	瀬川 拓郎	15	
1月14日（金）	アイヌ民族の植物利用の知恵	石井 智美	11	48

開催日	講座名	講師名	受講者数	
			対面	オンライン
1月16日(日)	千歳の『チセ』から出前授業 ーアイヌ民族を学び伝える秘訣ー	中原 直彦	9	34
	アイヌ民族自身が行う伝承活動の 意味と 必要性	門別こずえ	17	X

※1月15日(土)にも開催を予定していたが、天候不良のため中止とした。

## ⑤ 講演会

広く国民一般を対象に、全国各地でその地域の社会的状況を考慮しながら、アイヌの歴史や文化をテーマとした基礎的な内容の講演会を開催し、その知識の普及啓発を図った。

開催日・開催地	演 題	講 師	来場者数
7月24日(土) 滋賀県大津市	江戸時代の近江と蝦夷地 ー滋賀大学経済学部附属史料館の収蔵史料にみるー	青柳 周一 滋賀大学経済学部教授	800
10月2日(土) 群馬県高崎市	アイヌのくらしと民具	山崎 幸治 北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授	911
1月22日(土) 北海道札幌市	アイヌ古式舞踊とその未来 ～東京2020オリンピック・パラリンピックでの発信を踏まえて～	秋辺日出男 当財団評議員	282

## ⑥ イランカラプテキャンペーン

アイヌ語の挨拶の言葉である「イランカラプテ」をアイヌ文化の情報発信や理解促進のキーワードとして、アイヌ文化等への親近感や共感を高めるための取り組みを実施した。

### (a) 空港等での展示

釧路空港、函館空港、帯広空港、旭川空港、新函館北斗駅

### (b) 札幌駅におけるアイヌ文化情報発信

アイヌ文化情報発信コーナー(JR札幌駅西コンコース北口/北海道さっぽろ「食と観光」情報館内)におけるディスプレイを用いた道内アイヌ関連施設情報の常時上映、アイヌ工芸作品の常設展示、アイヌ関連イベント等の情報発信。

### (c) 三大都市圏(東京都、大阪市、名古屋市)等におけるアイヌ文化PR事業の実施

アイヌの歴史や文化に関する情報、アイヌ文化関連資料等を組み合わせた展示パッケージを制作し、PR効果が高い展示スペースを巡回。

会場	実施期間	来場者数
JR 東京駅構内地下1階改札内 イベントスペース 「スクエアゼロ」	3月2日(水)	614名
羽田空港第1ターミナル2階「マーケットプレイス」	3月4日(金) ～3月6日(日)	1,451名
JR 名古屋駅イベントスペース	3月8日(火)	1,032名

会場	実施期間	来場者数
伊丹空港南ターミナル1階 ANA チェックインカウンター前	3月12日（土）	120名
グランフロント大阪北館1階 ナレッジプラザ	3月19日（土）	955名

(d) 普及啓発DVDの制作・配布

令和2年度から引き続き、『イランカラプテ～こんにちはアイヌ文化』（平成18年）改訂版DVD作成にあたり企画委員会において協議し、下記の映像作品を制作・配布した。

(ア) 映像作品

作品名	作成時期	作成数	主な配布先
もっとしりたい！私たちのこと。	3月	1,000	小中学校、博物館、図書館、各アイヌ協会、アイヌ関係団体など

(イ) 企画委員一覧

役職名	氏名	摘要
委員長	北原モコットウナン	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
委員	貝澤 太一	アイヌ文化活動アドバイザー
委員	川上 恵	アイヌ文化活動アドバイザー
委員	床 州生	阿寒アイヌ工芸協同組合理事
委員	早坂 由似	アイヌ文化活動アドバイザー
委員	山崎 幸治	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授

(ウ) 企画委員会

開催日	開催場所	協議事項等
6月23日 （水）	財団会議室 （オンライン会議）	DVDの制作方針について、その他
8月18日 （水）	財団会議室 （オンライン会議）	DVDの制作方針について、その他
9月14日 （火）	財団会議室 （オンライン会議）	DVDの制作方針について（シナリオ 基本情報編）、今後のスケジュールについて、その他
10月6日 （水）	財団会議室 （オンライン会議）	DVDの制作方針について（シナリオ 基本情報編）、その他
10月29日 （金）	財団会議室 （オンライン会議）	DVDの制作方針について（シナリオ 文化・言葉・現在編）、その他
11月17日 （水）	財団会議室 （オンライン会議）	DVDの制作方針について（映像 基本情報編）
1月6日 （木）	財団会議室 （オンライン会議）	DVDの制作方針について（基本情報篇・文化篇・言葉篇・現在篇 映像確認）

(e) イランカラプテキャンペーン普及啓発事業に係る視聴覚資料製作

タイトル「アイヌのえほん vol.2」当財団HPにて公開

## 2 アイヌ文化交流センター事業

首都圏に居住するアイヌの人々の交流活動やアイヌ文化の伝承活動などを支援するとともに、アイヌと一般の人々との交流の場やアイヌ文化などに関する情報収集・発信の場として、多角的な機能をもつアイヌ文化交流センターを運営した。

(a) 常設展示の実施

(b) アイヌ関係図書や映像資料の閲覧

種 別	購入数	寄贈数	総 数	備 考
図 書	97	35	5,711	
映 像	1	3	524	DVD 436本含む

(c) イランカラプテ・アイヌ文化体験講座

開催日	開催場所	講座種別	講 師 助 手	受講者数	受講対象者
11月16日(火)	アイヌ文化交流センター	舞踊	宇佐 恵美 有里明日香	7	一般
11月30日(火)	アイヌ文化交流センター	舞踊	宇佐 恵美 有里明日香	7	一般
12月14日(火)	アイヌ文化交流センター	刺繍	島田あけみ	9	一般
12月21日(火)	アイヌ文化交流センター	刺繍	島田あけみ	11	一般

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1月18日、25日に開催予定の講座は中止した。

(d) 交流センター利用者（令和3年3月31日現在）

区 分	利用者数	対前年比
アイヌ関係者	318	▲ 65
一 般	941	▲278
合 計	1,259	▲343

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

(5月1日～6月20日、7月12日～9月30日、2月1日～3月21日)

## V アイヌ文化の伝承者育成

### 1 伝承者育成事業

アイヌ文化における様々な技術や言語等を総合的又は分野別に身につけそれらを伝承する者の育成を図る。

(a) 昼間型

アイヌ文化に関する知識や技術・技能を身につけ、実施地域のニーズを踏まえて策定した伝承者育成プログラムにより、地域のアイヌ文化を根底から支える人材(伝承者)の育成を図る。

区 分	事業内容等	開催期間
5期生 2年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者 4名</li> <li>・受講日数 230日</li> <li>・講義及び実習</li> </ul>	4月1日（木）～3月31日（木）

(b) 夜間型

アイヌ文化に関する知識や技術・技能を身につけ、特定分野に関する高度な知識・技術・技能の修得を行い、地域のアイヌ文化を根底から支える人材（伝承者）の育成を図る。

区 分	事業内容等	開催期間
アットウシ （着物）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者 4名</li> <li>・受講日数 48日</li> <li>・講義及び実習</li> </ul>	4月26日（月）～ 3月23日（水）
アットウシ （反物）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者 4名</li> <li>・受講日数 48日</li> <li>・講義及び実習</li> </ul>	7月 5日（月）～ 3月23日（水）
イタ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者 4名</li> <li>・受講日数 24日</li> <li>・講義及び実習</li> </ul>	8月30日（月）～ 3月23日（水）

VI 民族共生象徴空間運営事業

1 民族共生象徴空間運営管理事業

① 国立民族共生公園等管理業務

(a) 目的

国立民族共生公園では自然と共生してきたアイヌ文化を尊重し、多様な来場者の理解を促進するとともに、豊かな自然を活用した憩いの場の形成等を通じ、アイヌ文化の継承や新たなアイヌ文化の創造発展につなげる。目標年間来場者100万人の達成に向けて、伝統芸能上演プログラムや体験交流プログラムのほか、来場者サービスの提供、広報・誘客促進など、民族共生象徴空間の管理運営に必要な業務を国土交通省から受託し実施した。

- ・入場者数 令和3年度 190,618 人  
（令和2年度 222,794 人）

(b) 事業内容

(7) 伝統芸能の上演及び体験交流プログラムの提供に関する業務

＜プログラムの運営企画・実施＞

体験交流プログラムの提供を新型コロナウイルス感染防止に留意しつつ実施した。

体験プログラムの実績及び来場者アンケート等を踏まえ、各プログラムの見直し及び新プログラムを実施した。

- ・体験交流ホールのほか、チキサニ広場及びコタン前広場で伝統的な舞踊、歌、楽器演奏等を上演した。
- ・体験学習館でムックリ演奏及び製作体験、アイヌ料理実食及び調理体験、キッズプログラム、アイヌ語プログラム等を実施した。

- ・伝統的コタンで口承文芸実演、丸木舟操作実演・解説等を実施した。
- ・工房でアイヌ文様刺繍体験、アイヌ文様木彫体験等を実施した。
- ・冬期のプログラムとして、芝生広場及びコタン前広場でウパシチャラセ（雪すべり）、イラマンテ（猟・漁）、シノッ（輪投げ付き、投げ輪、棒なわとび）、クチャ（狩小屋）を実施した。

#### <伝統工芸家等の招へいによる技術の実演>

アイヌ文化の伝承活動と理解促進のため、各地域の伝統技術伝承者を招へいし、工房において製作技術の実演公開を行った。

#### <保存会による古式舞踊披露及びモニター事業の実施>

アイヌの伝統及びアイヌ文化の理解促進を図るため、各地でアイヌ古式舞踊を伝承している保存会を招へいし、体験交流ホールのほか、チキサニ広場で舞踊等を披露及び発信した。また、今後のウポポイの効果的な運営の基礎資料とするため、アイヌ文化伝承活動を実践する団体を招へいし、モニターとして意見を聴取した。

#### <夜間プログラムの運営>

夜間開園時に、アイヌ文化に関連するエンターテインメント性のあるプログラムを提供した。

- ・体験交流ホールの外壁等を活用したプロジェクションマッピング及びLEDオブジェショーを実施した。
- ・体験交流ホール内でアイヌ文化にもとづく短編映像を上映した。
- ・体験学習館で、アイヌ文化にもとづくVRによる360度映像の体験を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、ドーム型スクリーンによる映像体験を実施した。

#### <体験交流ホールの運営>

体験交流ホールにおける映像・音響及び照明機材について、演目の演出に応じた操作を行った。また、機材のメンテナンスを適時に実施した。

#### <休憩スペース等設置>

来場者が園内において快適に滞在できるよう、テント、休憩所、仮設トイレ等を設置した。

#### (イ) 来場者に対する園内サービスの提供に関する業務

- ・入場券等の販売について、公園と博物館において別々であった発券システムを統合し来場者の利便性の向上を図った。
- ・団体予約の利便性向上のため、教育旅行については年1期の予約開始時期を、教育旅行の繁忙期を考慮し年3期とした、また一般団体について、予約開始時期を2週間から4週間へ変更した。

#### (ウ) 広報及び誘客促進等に関する業務

目標年間来場者数100万人の達成に向け、一層の認知度向上及び誘客促進を目的とした広報、誘客活動等を実施した。

- ・ウポポイホームページについて、内容の充実及びユーザビリティの向上を図るとともに季節に応じた適時の更新を実施した。また、FacebookなどのSNSを活用し、ウポポイの見どころやイベント等を適時に発信した。
- ・ロゴ、写真、キャラクター(トゥレップン)の画像使用承認を通じ、民間事業者が行うウポポイ応援商品の開発及び出版物でのウポポイPRに努めた。
- ・新聞、雑誌等の出版物におけるウポポイ紹介記事及びラジオ、テレビ局が企画する番組への出演協力等を通じ、ウポポイの認知度向上及びPRに努めた。
- ・引き続き旅行会社との観光クーポン契約を行った。
- ・教育旅行催行の旅行事業者等に対し、見学可能な施設等をウポポイ側から提案、調整するなど、学校等教育機関の積極的受け入れ及び満足度向上に努めた。
- ・旅行事業者に対しファミツアーを実施し、一般及び教育旅行の商品造成への意欲の向上に努めた。
- ・冬期の誘客対策として、旅行事象者に対する旅行商品造成のための募集を行った。

#### (エ) 来場者の安全確保

開業前に、防火・防災等危機管理計画及び防災消防訓練の説明会、地震・津波を想定した防災訓練及び白老消防署の指導による救命講習を実施した。

#### (オ) 施設維持管理業務

良好な状態で施設を維持管理していくため、国立民族共生公園、慰霊施設及び管理運営施設の建物・設備管理業務、警備・巡視業務、清掃業務、廃棄物処理業務、除雪業務、利用・案内業務及び植物管理業務を委託した。併せて、新型コロナウイルス感染防止対策として、サーモグラフィ、検温所等を設置したことを踏まえ、これに付随する誘導及び監視等の業務を委託した。また、慰霊施設の一部を津波等による指定緊急避難場所として指定し、ウポポイの来場者に限らず地域住民が利用できるよう白老町と協定を締結した。

## ② 国立アイヌ民族博物館管理業務

国立アイヌ民族博物館は先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展につなげる。

また、「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」(日本博物館協会令和3年10月14日改訂)を踏まえた対策を行いつつ、展示の企画、調査・研究業務の企画資料調査、教育普及など、博物館の管理運営に必要な以下の業務を文化庁から受託し実施した。

### (a) 調査研究・交流に関する業務

#### (イ) 調査研究事業の企画・立案

- ・アイヌの歴史と文化及び博物館機能強化に関する調査研究事業(基幹研究7件、個別研究5件、資料調査等3件)を実施した。

- ・厚真町所有の文化財資料の検証作業（厚真町教育委員会所有の文化財資料の X 線撮影及び撮影環境データの報告）を実施した。
- (イ) 国立アイヌ民族博物館ネットワーク運営委員会及びネットワーク構築
- ・「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称ブンカラ）」について、運営委員会を 7 月と 3 月に開催しネットワーク事業に関する協議を行い、11 月には会員機関の所属職員を対象としたアイヌの歴史・文化に関する基礎的知識及びアイヌ民族資料の取扱等に関するオンライン研修会を実施した。
  - ・関係機関等にネットワークへの参加の呼びかけ等を行い、新たに 6 機関が入会した（参加機関等：59）。
- (ロ) 新たな外部関係機関等との連携協力
- ・「苫小牧市が所有するアイヌ資料を対象とした共同研究の実施及び成果物の管理と利用に関する覚書」を締結した。（令和 3 年 8 月 27 日）
  - ・収蔵資料の研究・活用によるアイヌの歴史・文化に関する学術研究の進展やアイヌ文化の継承活動等を行うことを目的とし、（公社）北海道アイヌ協会と協会が派遣する研修者の取扱いに関する協定を締結した。
  - ・第 59 回北海道博物館大会（7 月、白老）及び第 69 回全国博物館大会（11 月、札幌）について大会プログラムの企画及び運営について協力した。
- (ハ) 国内の研究集会（シンポジウム）の企画・開催
- ・当館と国立民族学博物館の共同により 10 月に開催された「ビーズ アイヌモシリから世界へ」の関連イベントとして、当館にてシンポジウム 4 件、講演会 1 件を 10 月から 11 月にかけて実施した。
  - ・北海道大学低温科学研究所 ArCS II プロジェクト沿岸環境課題との共催によるオンライン講演会「暮らしの変化と文化伝承」を 6 月に開催した。
- (ニ) ニュースレターの発行、研究報告書の刊行の実施
- 当館における研究成果及び活動内容等を研究機関等に発信するために、国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」を年 4 回発行し、関係機関・関係者等約 1,000 か所に送付した。また、むかわ町穂別博物館所蔵のアイヌ資料調査に関する報告書を作成・刊行した。
- (ホ) レファレンス業務
- 利用者からの問合せ（以下、レファレンス）145 件分を対応した。また、当館の使命であるアイヌ民族の歴史と文化の正しい知識の提供と理解の促進を目指し、現在ホームページにて公開している「よくある質問」における新規 Q&A を 7 件検討した。
- (ヘ) 研究成果の社会発信
- ・研究成果の社会発信として、論文（査読有）2 件、論文（査読無）1 件、寄稿・解説等 64 件、共同研究 16 件、学会発表（国外）4 件、学会発表（国内）14 件、講演会・講義

40 件、非常勤講師（大学等）17 件、外部委員 11 件、その他業務 11 件を実施した。

- ・渋谷区立松濤美術館特別展「アイヌの装いとハレの日の着物」（会期：令和 3 年 6 月 26 日（土）～8 月 9 日（月・祝））への企画協力を行った。

(ク) 科学研究費補助金の獲得に向けた体制構築の実施

当財団における公的研究費の管理・監査および研究活動における不正行為への対応等に関する規程・要領について周知し、日本学術振興会による研究 e ラーニングコースを受講した。また、査読付きの学術論文執筆に向けての研究体制について検討した。

(ケ) インターンシップ受入体制の整備

今年度の受け入れ実績はないが、次年度に向けて検討した。

(b) 展示企画に関する業務

(ア) 展示替えの企画・立案及びキャプション・グラフィック等の作成等

基本展示室における展示資料について、およそ 60 日周期で劣化が懸念される資料（染色資料、紙資料）を中心に年度内に 6 回、延べ 278 点の展示替えを行うとともに、必要なキャプション等を作成した。

(イ) 特別展およびテーマ展の実施

- ・第 1 回テーマ展示：収蔵資料展「イコロ～資料にみる素材と技～」(第 3 期)を以下のとおり実施した。

協 力	エクスロン・インターナショナル株式会社
実施会場 実施期間	国立アイヌ民族博物館 特別展示室 令和 3 年 3 月 30 日（火）～5 月 23 日（日）[55 日間]
観覧料金	無料(ウポポイ入園料のみ)
事業内容	出品展示数：約 80 点（当館所蔵資料） 関連事業：ホリデーイベント もっと知りたい！「収蔵資料展 イコロ」（各回 30 分、4/10、4/24、5/8 の 3 回実施）

- ・第 2 回特別展示：「ゴールデンカムイ トウラノ アプカシアン ― 杉元佐一とアシリパが旅する世界 ―」を下記のとおり実施した。なお、会期については新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の会期を変更して実施した。

後援者名	小樽市総合博物館、札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）、市立函館博物館、新ひだか町博物館、大樹町教育委員会、東北歴史博物館、名寄市北国博物館、登別温泉ケーブル株式会社のぼりべつクマ牧場、博物館網走監獄、函館市中央図書館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、北鎮記念館、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、北海道大学附属図書館北方資料室、北海道博物館
実施会場 実施期間	国立アイヌ民族博物館 特別展示室 令和 3 年 7 月 3 日（土）～8 月 22 日（日）[51 日間]
入場者数	20,520 名
観覧料金	大人 300 円 高校生 200 円 中学生以下無料(ウポポイ入園料は別途)

事業内容	<p>出品協力及び展示数：集英社「週刊ヤングジャンプ」編集部、阿寒アイヌ工芸協同組合、旭川市博物館、旭川市図書館、小樽市総合博物館、札幌市アイヌ文化交流センター、新ひだか町博物館、大樹町教育委員会、東北歴史博物館、名寄市北国博物館、登別温泉ケーブル株式会社のぼりべつクマ牧場、博物館網走監獄、函館市中央図書館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、北鎮記念館、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、北海道大学附属図書館北方資料室、北海道博物館、北海道立北方民族博物館、野外博物館 北海道開拓の村、本館収蔵資料（個人は省略）約 161 点</p>
	<p>関連事業：講演会：『『ゴールデンカムイ』のアイヌ語監修者・中川先生のお話を聞こう』（7/23）、研究員・学芸員による特別展示の解説：「日露戦争と、北海道と樺太」（7/31）、講演会：「小樽市総合博物館の石川館長のお話を聞こう「いかにして小樽は舞台となったのか？」」（8/7）、研究員・学芸員による特別展示の解説：「子守唄から知る、生活の中のうたおどり」（8/14）、ゲストトーク：『『ゴールデンカムイ』の編集者・大熊さんのお話を聞こう』（8/22）</p>
	<p>同時開催：第2回エントランスロビー展示「アイヌ文化に興味を持った人に次に読んでほしいマンガ！特集」</p>

- ・第3回特別展示：国立アイヌ民族博物館特別展／国立民族学博物館巡回展「ビーズ アイヌモシリから世界へ」を下記のとおり実施した。なお、会期については新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の会期を変更して実施した。

主 催	国立アイヌ民族博物館、国立民族学博物館、(公財)千里文化財団
後援者名	北海道、北海道教育委員会、(公社)北海道アイヌ協会、北海道新聞社、朝日新聞北海道支社、毎日新聞社北海道支社、読売新聞北海道支社、苫小牧民報社、室蘭民報社、NHK 北海道、北海道放送、STV 札幌テレビ放送、北海道テレビ、北海道文化放送、テレビ北海道、STV ラジオ、AIR-G ‘エフエム北海道、エフエム・ノースウェーブ
実施会場 実施期間	国立アイヌ民族博物館 特別展示室 令和3年10月2日（土）～令和3年12月5日（日）[65日間]
入場者数	21,682名
観覧料金	大人 300円 高校生 200円 中学生以下無料(ウポポイ入園料は別途)
事業内容	<p>出品協力及び展示数：国立科学博物館、北海道立北方民族博物館、北海道埋蔵文化財センター、石狩市教育委員会、大阪市クラフトパーク、小樽市教育委員会、釧路市教育委員会、根室市教育委員会、北斗市教育委員会、浦幌町立博物館、奥尻町教育委員会、白老町教育委員会、知内町教育委員会、平取町教育委員会、余市町教育委員会、礼文町教育委員会、KOBÉ とんぼ玉ミュージアム、タジマ工業株式会社、トーヨー株式会社（個人は省略）約 500 点</p> <p>関連事業：アイヌ博×みんなく共催記念 オープニングイベント『世界のビーズ アイヌのビーズ』（10/3日）、製作イベント『自分だけのタマサイをつくろう』（10月16日、11月13日）、シンポジウム『2 万年続くビーズアイランド — 旧石器から近世までの北海道のビーズ史』（10月23日）、みんなくビーズ研究最前線①『ビーズの魅力を探るその1：玉からみたアイヌモシリ』（10月24日）、みんなくビーズ研究最前線②『ビーズの魅力を探る その2：玉と文明』（11月6日）、講演会『ビーズ つなぐ・かざる・みせる』（11月20日）</p>

事業内容	関連図書刊行：池谷和信編『アイヌのビーズ：美と祈りの2万年』平凡社、令和3年3月
	同時開催：第3回エントランスロビー展示 「ビーズ作品の作り手や博物館を探そう」

- ・第1回交流室展示：「ケレヤン、ヌカラヤン、ヌヤン さわる、みる、きく、国立アイヌ民族博物館」を下記のとおり実施した。なお、会期については新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の会期を変更して実施した。

協力	苫小牧市社会福祉協議会、苫小牧身体障がい者福祉連合会、苫小牧市点訳赤十字奉仕団 音・映像：春日聡氏（国立歴史民俗博物館客員准教授）
実施会場 実施期間	国立アイヌ民族博物館交流室B [第1期] 令和3年8月21日（土）～10月3日（日）[44日間]（ただし8/31～9/30まで臨時休館） [第2期] 令和3年1月29日（土）～2月27日（日）[30日間]
入場者数	[第1期] 1,623名、[第2期] 1,714名 計 3,337名
観覧料金	無料(ウポポイ入園料のみ)
事業内容	講演会「未開の知」に触れる — ユニバーサル・ミュージアムとは何か — (8/21)、ユニバーサルミュージアム& パーク「音楽を体験してみよう！」(8/28)、オープニングイベントユニバーサルミュージアム& パーク「音楽と民具にふれてみよう！」(1/29)、ユニバーサルミュージアム& パーク「音楽を体験してみよう！」(2/11、2/13、2/23)、ユニバーサルミュージアム& パーク「民具をつかってみよう！」(2/6、2/19)、ワークショップ「さわる、みる、きく、そしてはなす」(2/27)

- ・第2回テーマ展示：「地域からみたアイヌ文化展 白老コタンの衣服文化」を下記のとおり開催した。

後援者名	(公社)北海道アイヌ協会、白老町、白老町教育委員会
実施会場 実施期間	国立アイヌ民族博物館 特別展示室 令和4年3月15日（火）～令和4年5月15日（日）[62日間]
観覧料金	無料(ウポポイ入園料のみ)
事業内容	出品協力及び展示数：一般社団法人白老アイヌ協会、一般社団法人白老モシリ、白老民族芸能保存会、エミナの会、白老 楽しく・やさしいアイヌ語教室、チシポの会、チタラペ、テケカラペ、フッチコラチ、北海道博物館、北海道大学附属図書館、市立函館博物館、仙台藩白老元陣屋資料館 約70点
	関連事業：ホリデーイベント きいてみよう！「白老の衣服文化」(4/16、4/30、5/7)、講演会「白老の衣服文化」(5/4)

- ・次年度開催する特別展及びテーマ展について、下記のとおり計画した。

○第4回特別展示 「CHIRI MASHIHO 知里真志保 — アイヌ語研究にかけた熱意 —」

→令和4年6月25日（土）から令和4年8月21日（日）まで58日間

○第5回特別展示 「イコロ ウエカリレ — アイヌ資料をコレクションする —」

→令和4年9月17日（土）から令和4年11月20日（日）まで65日間

○第3回テーマ展示「国立アイヌ民族博物館 2020」（仮称）

→令和4年12月13日（火）から令和5年2月12日（日）まで62日間

○第4回テーマ展 「阿寒湖畔のアイヌ文化」（仮称）

→令和5年3月14日（火）から令和5年5月14日（日）まで62日間

(ウ) 多言語化の推進

- ・プラザ展示及び「私たちのことば」「私たちの世界」「私たちの暮らし」のグラフィック及び館内の全映像コンテンツの翻訳を再検討し、字句修正や音声の再収録など必要な見直しを実施した。
- ・基本展示室の展示替えに伴うキャプションの翻訳及び、特別展、テーマ展及び交流室展の多言語化(英・中・韓)を行った。

(エ) ガイドブック・図録等の企画および編集

- ・特別展示、テーマ展示及び交流室展のチラシ、ポスターを製作し、国内の博物館等関係機関に送付するとともに、パンフレットを作成し、来館者に配布を行った。  
なお、交流室展のチラシ、パンフレットは視覚障害者に配慮した点字版を製作した。
- ・ガイドブックや図録の発行に向けて複数の出版社との協議を実施した。

(オ) 音声ガイド機の維持・管理および内容の更新、携帯アプリ

- ・音声ガイド機については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、機器の貸出を見合わせた。
- ・携帯アプリの配信を行うとともに、配信している Apple Store のアカウント手続きとしてアップルデベロッパープログラムの更新を行う等、必要な保守管理を行った。

(カ) 「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会」の運営

- ・オンラインシステムを併用しつつ国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会を3回(9/27、12/13、3/22)、アイヌ語表現・新語検討ワーキング会議を2回開催した。
- ・さらに、アイヌ語による執筆者・校閲者会議を12月～2月にかけて計9回実施した。

(c) 資料の収集・保管等に関する業務

(7) アイヌ関係資料等の収集のための鑑査会議等の運営

資料収集のための鑑査会議を3回開催(8月、10月、12月)し、受入可とされたアイヌ関係資料については買取協議会の開催等必要な手続きを経て列品への受入を行った。

(イ) 列品等の整備及び収蔵環境下における列品等の適切な管理

- ・旧社台小収蔵庫で仮保管していた列品等について、コンディション維持を図るためにクリーニング作業を実施した(クリーニング実施点数:1577点)。
- ・旧社台小収蔵庫の収蔵環境を適切な状態とするため、温湿度制御や虫菌害の監視を行うとともに、カビの再発生や虫害が懸念される資料を対象に、博物館への資料移送前に薬剤燻蒸を施し状態の健全化を図った(薬剤燻蒸:1回実施、処理資料数:約8500点図書)

等：ダンボール箱 200 箱分)。

(ウ) 旧社台小から博物館への列品等の移送

- ・博物館への移送に備えて、旧社台小収蔵庫に保管している全資料の資料番号照合、箱と中身の確認、クリーニング作業、チェックリスト作成等を行った。
- ・令和 3 年 7 月及び 10～11 月の 2 回の移送作業により、旧社台小収蔵庫に仮保管されていたすべての収蔵資料(文化庁購入資料、当財団資料、寄託資料。約 9,500 点)及び写真映像音声資料の博物館への移送を完了した。

(エ) 列品等の資料整理及び収蔵品管理システムへの登録・外部公開等管理

下記のとおり旧(一財)アイヌ民族博物館の資料と平成 27 年度から前年度までの文化庁購入資料についてシステムへの登録作業を行うとともに、一部データの外部公開を行った。

資料登録件数(R4. 3. 10 現在)	11,430 件
資料公開件数	155 件
画像登録件数	7,551 件
画像公開件数	408 件
音声登録件数	14 件

(オ) 列品等の特別観覧及び資料等の画像利用への対応

下記のとおり外部からの特別観覧及び画像利用への対応を行った。

列品等の特別観覧の許可(外部)	5 件	23 点
資料等の画像利用の許可件数(外部)	27 件	67 点
内部での特別観覧件数	5 件	121 点
内部での画像利用件数	20 件	108 点

(カ) 列品等の貸出

外部の者への列品等の貸出実績は 1 件 2 点であった。

(キ) 科学分析機器等の適切な運用、保守管理

- ・博物館が実施する基幹研究等の調査研究事業において、資料等の科学分析に活用するとともに、利用マニュアルの整備等を行った。
- ・必要に応じてメーカー等と保守契約を締結して定期メンテナンスを行う等、常に当該装置の性能が発揮できるよう良好な状態となるよう適切に管理を行った。

(ク) 共同研究等に応じた分析等の計画調整等

岩手県からの依頼に基づく文化財分析について、基幹研究など博物館の調査研究事業での分析機器使用とのスケジュール調整を行い、マシンタイムを確保し必要な分析を行った。

(ケ) 文化財資料の収蔵環境整備 (IPM、燻蒸含む) に関する計画の作成、環境整備の実施

- ・空調制御による収蔵庫内、基本展示室、特別展示室の温湿度制御及び空気汚染物質濃度の測定を実施し、安定した温湿度推移が維持できるよう対応するとともに、有機酸濃度、アンモニア濃度共に東京文化財研究所の指針値以下の値であることを確認した。

- ・ 展示ケース内の温湿度制御について、空調制御及び調湿剤の交換作業を実施するとともに、空気汚染物質濃度の調査、ガス吸着剤の設置を実施し、有機酸濃度、アンモニア濃度共に東京文化財研究所の指針値以下の値であることを確認した。
- ・ 館内各所に害虫トラップを設置し 1 ヶ月毎に回収して捕獲された害虫を調査し、館内の害虫の侵入は少ない状態を維持できた（設置箇所：105）。
- ・ 博物館内に移送した列品や借用品等について、生物処理が必要な資料については冷凍庫を用いて殺虫処理（凍結処理）を行った（凍結処理数：10 件/約 50 点）。
- ・ 第 3 回特別展示で国指定重要文化財の借用・展示にあたり、文化財保護法第 53 条に定める条件を満たすため、必要な展示・収蔵環境の整備を施した。
- ・ 当館収蔵庫内への列品等の搬入に伴い、塵埃や汚れ、害虫の侵入が確認されたため、収蔵庫内の清浄度を向上させるため、IPM メンテナンス（収蔵庫内の特殊清掃）を実施した。

#### (d) 教育普及に関する業務

##### (ア) 博物館における教育事業（講演会、ギャラリートーク、ワークショップ、出前授業・遠隔 授業等）の企画・立案及び実施

- ・ オンライン会議システムを活用し、中学校 2 校に述べ 5 回の遠隔授業を実施した。  
なお、出前授業は、本年度は学校からの依頼がなかったので実施しなかった。
- ・ ホリデーイベントを通算 36 回実施した。（工作型 4 回、講演型 12 回、対話型 13 回、ガイド型回 7 回）実施し、合計 1,148 人が参加した。実施するイベントについては、当館ホームページ及び SNS を活用して周知した。また、来館者の評価等、実施内容を検証するため、アンケートを実施した。
- ・ 「こども霞が関見学デー」に参加し、オンラインプログラムとして、展示室ツアーやワークショップを実施した。大学や外国語ボランティア団体の要請を受けて、来館ツアーや講話などの社会人研修を 3 回実施した。
- ・ ギャラリートークは、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら探究展示と「ことば」展示で実施し、通算 2,246 組 4,757 名の来館者に対応した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症流行のため実施を控えていた、基本展示室の展示解説ツアーを、これまでの知見をふまえて一回 6 名規模で試行実施した。
- ・ 目や耳の不自由な方への基本展示室ツアーの試行対応を行いながら、対応フローと必要な解説ツール類、点字冊子等を試作した。

##### (イ) アイヌの人たちに対する文化伝承に資する研修

（公社）北海道アイヌ協会との協定に基づき、アイヌ工芸者技術研修会を札幌アイヌ協会会員 1 名に対し 6 回計 12 日間実施した。当館収蔵資料をもとに、衣服や装身具の資料熟覧を行った。

##### (ウ) 学芸員を目指す学生に対する博物館実習

本年度は学芸員実習生を受け入れる体制が整わず、実施しなかった。

(エ) ライブラリの運営

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止措置により最大 10 名利用として運用し、12,406 名が利用した。
- ・図書館システムへの図書登録作業を毎日行い、今年度で 9,729 冊の登録が完了した（登録数総計 18,685 冊）。
- ・オンラインで国立国会図書館所蔵資料の複写サービスを受けるため、国立国会図書館利用者登録を行った。

(オ) 来館校に対する教育プログラム

来館した小学校、中学校、高等学校の児童生徒及びその引率者 8,805 名に対して学習プログラム「はじめてのアイヌ博」を延べ 141 回実施した。

(カ) 学校授業で使うアイヌの歴史と文化に関する学習教材

北海道教育委員会、近隣の市町教育委員会や校長会と連携し、「アイヌ民族に関する指導教材制作委員会」を設置し、学習指導要領に示された目標や内容に則り、学習活動ができる動画教材（小学校 6 年社会科、中学校社会科・歴史）を作成した。

(キ) 学校教育と連携した取組

- ・国立科学博物館等と連携し、アイヌ民族の歴史や文化に対する理解を深める教員向けの研修会として、胆振管内を中心とした道内の小中学校教員を対象に「教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館」を開催した（8/2、現地参加 44 名、リモート参加 22 名）。
- ・北海道教育委員会、広島県教育委員会の要請を受け、研修会への講師派遣及びオンラインによる講話を行った。

(e) 博物館施設管理等に関する業務

(ア) アイヌ資料及び図書文献資料の収集

本年度は下記のとおりアイヌ資料等の収集を行った。

資料の買取	9 名	39 件	45 点
資料の寄託受入	1 名	1 件	2 点
資料の寄贈受入	4 名	7 件	8 点

(イ) 博物館運営に必要な設備備品の購入

X 線回折装置のアタッチメントや二層周密書架の自動散開プログラムの導入等、博物館運営に必要な設備備品の購入を行った。

(ウ) 博物館に関する広報活動の企画立案、広報媒体の作成及び展開

- ・ウポポイ誘客促進事業を通じて博物館の情報発信・広報活動を行うとともに、新聞コラムでの関連記事掲載や、TV 等マスコミ等の取材協力等を通じた広報活動を展開した。
- ・特別展及びテーマ展の開催に当たっては、展覧会毎に広報計画を作成し、プレスリリースやマスコミ向け内覧会の実施、ポスター・チラシ等の配布、新聞広告、ホームページ上で広報等を行った。

(エ) ウィズコロナ時代に対応した博物館の情報発信等に関する企画等

- ・基本展示室等の室内を、インターネットを通して見ることができる「バーチャル国立アイヌ民族博物館」(VR)を作成した。展示室内の自動見学コースを企画し、障害者に利用しやすい音声案内の導入、VR内で研究員・学芸員による研究紹介映像等を埋め込むなど、コロナ禍でも対応できるようにした。同時に、当館収蔵資料から10点(家屋模型、靴、小刀等)の3D撮影を行い、オンライン公開の準備を進めた。

(オ) 館内LAN等情報機器の運用及び保守管理

昨年度に引き続き、セキュリティ対策等の環境整備及び保守管理を行うとともに、当館職員による情報セキュリティ委員会を開催し、各職員による情報漏えい対策も行った。

また、ファイルサーバの容量逼迫への対応のためNASサーバの併用及びファイルサーバの容量増強を行う等適切に館内の情報機器の運用・管理を行った。

(カ) 博物館施設の維持管理(施設設備管理、警備、清掃、廃棄物処理等)の実施

昨年度に引き続き、博物館施設を良好な状態で維持管理するため、建物設備等の点検、24時間常駐による警備、館内各所の清掃、廃棄物処理等を適切に実施した。

(キ) 来館者対応業務(受付・案内、音声ガイド貸出・回収、監視、混雑時の誘導等)の実施

昨年度に引き続き、博物館内各所(入口、受付カウンター、シアター、基本展示室・特別展示室、ライブラリなど)に必要な要員を配置し、来館者への接客対応や案内等を行った。

なお、音声ガイド期の貸出・回収業務については、新型コロナウイルス感染防止のため実施しなかった。

(ク) ウポポイにおけるアイヌ語体験プログラムの実施

新型コロナウイルス感染拡大防止に努めつつ、下記のプログラムを実施した。なお、アイヌ語に触れるだけではなくアクセントや発音などを重点的に学習し、ひとつでもアイヌ語を覚えてもらい「アイヌ語っておもしろいな、もっと知りたいな、また来たいな」というきっかけ作りとなれるよう工夫をしながら行った。

- ・紙人形を使い、誰でも知っているお話(三匹のこぶた・あかずきん・ブレーメンの音楽隊)をアイヌ語のみで紹介するキッズプログラム「ポン劇場」
- ・日常でも使える1言(イランカラプテ・挨拶のことば/イヤイライケレ・感謝のことば/スイウヌカラアンロ・お別れのことば)を紹介し、アイヌ語を復唱してもらう学習プログラム「アイヌイタカリアイェロ！」
- ・オリジナルビンゴカードの使ったビンゴゲームを盛り込んだ大人も参加できる学習プログラム「ピリカ! ビンゴアキロ！」

③ 広報活動等事業(令和2年度補正繰越分)

(a) 広報活動

(7) 目的

多くの方にウポポイの魅力を知ってもらうためのプロモーション活動を実施した。

#### (イ) 事業内容

##### ○記念式典等を通じたPR

- ・関係団体ほか来賓の出席を得て1周年記念式典を実施した。

##### ○新聞・テレビ等のマスメディアを通じたPR

- ・全国紙及び道内地元紙にウポポイ開業についての新聞広告を掲載したほか、テレビ及びWebCMの作成や全国テレビを含むテレビ番組にウポポイを取り上げていただくなど、道内外に対して積極的にPRを実施した。また、ゴールデンウィーク期間中の道央圏からの集客のため、休みの始まる直前にCM等で作成した動画を再利用し地下歩行空間等の街頭ビジョンで放映した。
- ・東京オリンピック・パラリンピックの開催により、これまで以上に海外の注目が集まる機会を活用し、ウポポイ及びアイヌ文化の海外向けテレビ番組等を制作・放送した。

##### ○旅行ガイドブック等の出版物を通じたPR等

旅行ガイドブックや道内フリーペーパー、首都圏鉄道広告やWEB広告に出稿し、ウポポイ開業について道内外に対して積極的なPRを実施した。

##### ○ホームページ等を活用したPR

ウポポイホームページ内に、新たにウポポイマガジンを開設し、幅広い年齢層にアイヌ文化に興味を持ってもらえるようコンテンツの拡充を図った。

#### ④ アイヌ語アーカイブ事業

##### (a) アイヌ語のアーカイブ作成事業

- ・静内及び沙流地方のアイヌ語資料のアーカイブ作成については、氏名非公表話者の音声資料85件19時間38分、沙流方言の音声資料94件60時間29分、静内方言の音声資料2件1時間42分のアーカイブを作成した。
- ・アイヌ語辞典のweb公開に関し、スマートフォン用アイヌ語辞書表示の改善を行った。

##### (b) アイヌ語アーカイブ作成推進のための人材育成

- ・オンライン教材の作成については、アイヌ語アーカイブ（会員用）ユーザーマニュアルなどのオンライン教材を作成・配信を行った。
- ・スクーリングについては、12月に平取で開催し、延べ100名が参加した。なお、9月に白老で予定されていた研究会は新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言下であったため中止した。

## 2 民族共生象徴空間収益事業

### ① テナント管理事業

#### (a) 目的

来場者に対して、飲食・物販の基本的サービスに加えて、アイヌの伝統的料理や伝統工芸品などを販売するために、テナント管理を実施した。

(b) 事業内容

テナントの管理

- ・飲食4店舗及び物販2店舗に関し、売上管理、テナント指導（衛生管理、商品管理、利用者サービス）等を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、来場者の誘導、什器の消毒等を協働して実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う来場者数減少を踏まえ、賃料減免等のテナント支援を実施した。

② 駐車場事業

(a) 目的

車で来場する方のために、園内第1駐車場、園外第2駐車場及び慰霊施設駐車場の維持管理を実施した。

(b) 事業内容

(ア) 駐車場の維持管理

自動ゲート等の設備の維持管理を行うとともに、必要な警備員を配置し、来場車両の誘導整理を実施した。

(イ) 駐車場料金の徴収

自動ゲート及び園内事前精算機により、駐車場利用者からの料金徴収を実施した。

なお、慰霊施設駐車場については、国等の意見を踏まえ、尊厳のある慰霊の実現という本来目的及び来場者の利便性を勘案し、令和3年12月より無料とした。

③ その他事業

(a) 目的

コインロッカーや自動販売機を設置し、来場者にサービスを提供した。また、ケータリングカー等を配置し、飲食を提供した。

(b) 事業内容

(ア) コインロッカーの設置

エントランス棟にコインロッカーを設置し、来場者の利用に供した。また、エントランス棟総合案内において手荷物預かりサービスを実施した。

(イ) 自動販売機の設置

園内6箇所に自動販売機を設置し、来場者の利用に供した。

(ウ) 収蔵品等の画像使用

規程を整備し、列品等を来場者の特別観覧に供した。

(エ) バナー広告

規程を整備し、ウポポイ公式HPへの民間企業等の広告掲載を受け付けた。

(オ) ケータリングカー等の配置

登録・出店に係る要領を定め、園内適所にケータリングカー等を配置し、来場者の利用に供した。

**Ⅶ その他**

・助成事業関係

令和4年度の助成申請に向け助成事業案内を作成した。

資料名	作成時期	作成数	配付先
助成事業案内 令和4年度版	12月	400部	北海道アイヌ協会、各アイヌ協会、 アイヌ関係団体、道内博物館ほか

・事業説明会

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施中止。

**第4 賛助会員の状況**

区分	入会者数	退会者数	現在数	備考
個人会員	12	7	100	アイヌ文化普及啓発資料として、カレンダーを作成
法人会員	1	0	9	
合計	13	7	109	

**第5 事業報告の附属説明調書** 該当なし